生物多様性と消費

絶滅の危機にあるサメ ②

絶滅の時が近づいている

IUCN（国際自然保護連合）のサメ専門グループは現在、全世界のサメとエイの種（全部で 1,000 近くある）について保全状況の評価を行っている。予備調査の結果では、北東大西洋と地中海におけるサメとエイの状況は世界で最悪となっている恐れがあるとされている。まだあまり研究がすすんでいないが、バルト海、黒海のサメとエイの個体群についても同様に減少の恐れがある。

IUCN レッドリストの基準によれば、評価対象となったヨーロッパのサメとエイの個体群の 3 分の 1 は現在、絶滅危惧種に分類される。さらに北東大西洋の 5 分の 1 と、地中海における 5 分の 1 弱の種は近い将来、絶滅危惧種に分類される恐れがある。評価対象となったヨーロッパの種の 4 分の 1 については、現在のところデータの不足から分類できない状況にある。2 種のノコギリエイ（多数の歯のついた長細い吻のある、サメに似たエイ）は絶滅危惧ＩＡ類（ＣＲ）に分類されているが、ヨーロッパの海において姿が見られなくなって久しい。

（The Shark Alliance HPより）

日本近海の絶滅の危機にあるサメ

IUCN のレッドリストによると、日本に生息するサメで評価対象になった 22 種のうち、アカシュモクザメとヒラシュモクザメが絶滅危惧ＩＢ類（EN）に分類されている。絶滅危惧Ⅱ類（VU）に分類されているものに、ニタリ・ハチワレ（オナガザメ科）、ヨゴレ（メジロザメ科）、メジロザメ、ホホジロザメ、ウバザメ、ジンベイザメ、アブラツノザメなどがある。

日本のサメ漁

日本のサメ類漁獲量は 1950 年代には 7 万トン以上であった。それ以降減少し、近年 2 万トン前後で推移していたが、この数年 3 万トンを越えている (*1)。

日本のサメの水揚げは、マグロやカツオを獲るための延縄によるものほとんどである。1992 年から 2000 年において、漁獲されたサメの種別をみてみると、ヨシキリザメが年間平均 12,400 トン漁獲され、サメ類全体の約 76％を占める。次いでネズミザメが平均 2,200 トン（約 13％）、アオザメが 1,100 トン（6.4％）、オナガザメ類が 530 トン（3.1％）となっている (*2)。

県別で見ると、宮城県及び千葉県はヨシキリザメ、ネズミザメの順に多く、遠洋マグロ延縄漁の多い神奈川県及び静岡県はアオザメ、オナガザメ類の順、底引き網の多い青森県及び岩手県はその他のサメ類、ネズミザメという順になり、漁法が漁獲される種に大きく影響していると考えられる (*3)。

絶滅をまねく混獲

混獲とは、漁業中に対象外の種を非意図的に、もしくは付随して捕獲してしまうことをさす。混獲は、世界的に重要な問題である。サメは通常の漁業対象種よりも増殖率が低いのでとくに問題になる。持続可能とされる漁業でも、混獲によってサメの個体数が深刻なまでに減少する可能性がある。

混獲されたサメは海にしばしば投げすてられるか、水揚げされても報告されないことが多いため、サメの個体数の激減は長期間気づかずに進行してしまう可能性がある。これは北大西洋に生息する大型のガンギエイでみられたケースである。

（The Shark Alliance HPより）

日本でのサメの混獲

日本では、1997 ～ 98 年のデータから 1 年間で 30 万トン以上のサメが捕獲されたという推定がある。この期間のサメの年間漁獲量が 2 万トン前後であることを考えると、日本の漁船によって漁獲された 9 割以上が海上投棄されたということになる (*4)。

(*1) 農林水産省　漁業・養殖業生産統計

(*2) 松永浩晶他「日本の主要な漁港におけるサメ類の種別水揚げ量の推定」、『日本水産学会誌』69(2)、2003 年、180 頁。

(*3) 同上、181 頁

(*4) 小林芳弘・高橋美春「食資源としてのサメ類に関する考察」、『盛岡大学短期大学部紀要』13、2003 年、32 頁。

JWCSはThe Shark Allianceの会員です。
翻訳協力：JWCS翻訳ボランティア

JWCS　特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会
設立：1990 年　NPO 法人格取得：2001 年
会長：小原秀雄（女子栄養大学名誉教授）　理事：安藤元一（東京農業大学教授）廣井敏男（東京経済大学名誉教授）森川純（酪農学園大学教授）山極寿一（京都大学教授）小川潔（東京学芸大学教授）鈴木希理恵（事務局・フリーライター）並木美砂子（千葉市動物公園飼育課主査）古沢広祐（國學院大學教授）西原智昭（WCS コンゴ）永石文明（株式会社クレアン）理事・事務局長：池本桂子（NPO 法人シーズ）　監事：磯田厚子（女子栄養大学教授）

〒105-0012
港区芝大門 1-11-2 三條マンション 202
Tel&Fax: 03-5425-6323
E-mail：info@jwcs.org
http://www.jwcs.org

JWCS携帯サイト

［会費・寄付のご送金先］
郵便振替　００１６０－９－７１５１４５
加入者名　野生生物保全論研究会
正会員年間　５０００円

JWCS通信 2011年通巻64号
2011年12月発行
発行人＝小原秀雄
編集＝鈴木希理恵
表紙＝土肥優子

IUCN Member

United Nations Decade on Biodiversity